

考察と今後の課題

- コスト削減が見込まれる。
- 残菜の減少 (通常の副菜の1/3)
- 口腔内残渣が減り、誤嚥性肺炎の危険性の低下などにより、食事介助しやすくなったと、高い評価を受けている。
- 今後の課題は、**アイテム数の増加** (現在11アイテム)と、個別対応するための**包装の小量化**・さらなる**品質の向上**。